

平成 30 年度学生海外派遣公式プログラム

「フィリピンの地質と自然災害を知る巡検」

概要—日本から南方に飛行機で約 5 時間のところに位置するフィリピン共和国は、日本とおなじようにプレートの沈み込み境界に位置しており、火山や地震活動が活発です。1991 年に発生したピナツボ火山の大噴火は 20 世紀最大の噴火とも呼ばれており、降灰とその後の降雨によって発生した泥流は、地域に甚大な被害をもたらしました。このプログラムでは野外と室内を組み合わせ、フィリピン大学ディリマン校の先生や学生とともにフィリピンの自然災害とその地質学的背景を学びます。

2018 年度（実施は 2019 年 2 月 11 日—20 日予定）は特にフィリピン西部のパラワン島とルソン島に行きます。パラワン島では、海洋プレートが陸上にのし上がったオフィオライトと呼ばれる地質帯の観察を通じて、地球表層数十 km の地下構造を理解します。そして、ピナツボ火山ではどのよう

な火山噴火が起き、それによってどのような災害が地域に起きたのかを、火山噴出物の観察などを通じて理解します。もちろん国際交流もぬかりはありません。フィリピン到着直後から最終日夜まで、フィリピン大学の教員と学生が絶えず一緒に行動します。初日のレクチャーからはじまり、最終日まで英語漬けです。

本プログラムでは野外での活動が多数あります。自然豊かな場所での野外活動は解放感がありますが、一方で、危険も伴います。本プログラムでは、現地大学教員と日本からの引率教員が密に連携して危険を最小限に抑えています。参加者の皆さん自身も、羽目を外さぬように本学の学生であるという意識を高く持ち、安全で実りある、楽しく学べる国際交流プログラムになることを目指しましょう。

2018 年度担当・引率教員

森下 知晃(moripta@staff.kanazawa-u.ac.jp)

ロバート・ジェンキンス

(robertgj@staff.kanazawa-u.ac.jp)



日程（予定）

2019 年（海外研修正味 8 日間，移動日を含めて全 10 日間）

- 2 月 11 日 午後 7:50 小松空港出発（羽田経由） 12 日 午前 3:55
- 2 月 12 日 午前 6 時 マニラ空港にてフィリピン大学教員・学生らと合流し，交流会とショートレクチャー。
午前 8 時 飛行機でパラワン島に移動（午前 9 時半到着）。
パラワン島見学 1：地形・珊瑚礁の見学。
夜 パラワン島の地質についてのレクチャー（フィリピン大の Dr. Betchaida D. Payot 先生）
- 2 月 13 日 パラワン島見学 2：大陸物質。
- 2 月 14 日 パラワン島見学 3：海洋プレート上部。
- 2 月 15 日 パラワン島見学 4：海洋プレート下部。
- 2 月 16 日 飛行機でパラワン島からルソン島へ。その後ピナツボ火山へ。
ピナツボ火山 1：ピナツボ周辺域の泥流堆積物の観察。
- 2 月 17 日 ピナツボ火山 2：火山噴出物と火口の観察。
- 2 月 18 日 マニラに移動。
フィリピン大ディリマン校でレクチャーと学習結果の復習。
- 2 月 19 日 フィリピン大ディリマン校でまとめ報告会。
National Museum of Natural History, Manila 見学。
マニラ 午後 11 時 50 分発の飛行機で帰国
- 2 月 20 日 小松空港午前 9 時到着。

